

## 第7章 第5節 データの補足説明と訂正

使用したデータは、以下の通りです。

変数名	<i>cr</i>	コールレート（無担保コール翌日物）
	<i>mb</i>	ベースマネー（季節調整済）
	<i>sp</i>	日経平均株価
	<i>lpi</i>	鉱工業生産指数（季節調整済）

コールレート以外の変数に対数をとって 100 を乗じたものが、それぞれ *lmb*, *lsp*, *lpi* です。

### 【データの補足説明】

VAR モデルの推定期間は、1978 年 1 月から 1994 年 12 月までですが、最適ラグを決定するために、1977 年 1 月から 1977 年 12 月のデータを加えています。また、予測値と現実値の比較のために、予測期間の 1995 年 1 月から 1995 年 12 月のデータを加えています。したがって、トータルとして、1977 年 1 月から 1995 年 12 月までのデータを使っています。

VAR モデルの最適ラグの決定は、本文の図 7.20 で示されているように、最大ラグを 10 として、10 から 0 までのそれぞれのラグ次数の AIC や SC 等の基準を比較し、それらが最小となるラグを採用します。推定期間は 1978 年 1 月から 1994 年 12 月までなので、ラグ 10 にあたる 1977 年 3 月からラグ 1 にあたる 1977 年 12 月のデータを必要とします。したがって、1977 年の 1 年分のデータを加えました（1977 年 1 月と 1977 年 2 月のデータは余分ですが）。最適ラグは 4 となりましたので、インパルス反応分析に使用する VAR モデルは、推定期間の最初である 1978 年 1 月から 4 期分のラグの 1977 年 9 月から 1977 年 12 月のデータをラグ変数のデータとして使っています。

### 【訂正】

VAR モデルはコールレート *cr* 以外の変数是对数を取り 100 を乗じています。しかし、鉱工業生産指数 *lpi* の変数是对数をとっていますが、ケアレスミスで 100 を乗じていません。申し訳ございません。読者の皆さんが追試を行う場合は、訂正をお願いいたします。

しかし、*lpi* の対数に 100 を乗じないとしても、推定パラメータが 100 倍大きくなるだけで、その他の推定結果や、インパルス反応分析にはまったく影響はありません。

（以上）